



## 安全データシート（SDS）

## 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当  
TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂日 2023/11/22  
SDS整理番号 20045250

- 製品等のコード : 2004-5250、2004-5260、2004-5270、2004-5280、2004-5150、  
2004-5160、2004-5170
- 製品等の名称 : 1,1,2,2-テトラクロロエタン（四塩化アセチレン）
- 推奨用途 : 試薬
- 参考：その他の用途（当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。）  
溶剤、洗浄剤、殺虫剤、防虫剤、除草剤、合成中間体 など
- 使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性  
引火性液体  
自然発火性液体  
自己発熱性化学品

: 分類できない  
: 区分に該当しない  
: 区分に該当しない

健康に対する有害性  
急性毒性（経口）  
急性毒性（経皮）  
急性毒性（吸入：蒸気）  
皮膚腐食性/刺激性  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性  
生殖細胞変異原性  
発がん性  
特定標的臓器毒性（単回ばく露）  
特定標的臓器毒性（反復ばく露）

: 区分4  
: 区分に該当しない〔区分5(国連GHS分類)〕  
: 区分3  
: 区分2  
: 区分2A  
: 区分2  
: 区分2  
: 区分1（中枢神経系、肝臓、腎臓）、  
区分3（麻酔作用、気道刺激性）  
: 区分1（中枢神経系、肝臓）

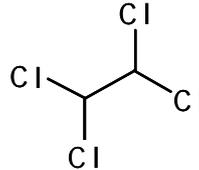
環境に対する有害性  
水生環境有害性 短期(急性)

: 区分2

注意喚起語 : 危険

## 危険有害性情報

飲み込むと有害（経口）  
皮膚に接触すると有害のおそれ（経皮）  
吸入すると有毒（蒸気）  
皮膚刺激  
強い眼刺激  
遺伝性疾患のおそれの疑い  
発がんのおそれの疑い  
中枢神経系、肝臓、腎臓の障害  
呼吸器への刺激のおそれ



眠気又はめまいのおそれ  
長期又は反復暴露による中枢神経系、肝臓の障害  
水生生物に毒性

## 注意書き

## 【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後は、よく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
環境への放出を避けること。

## 【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。  
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
医師に連絡すること。  
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。  
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。  
気分が悪い時は医師に連絡すること。  
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。  
眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

## 【保管】

日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名	1,1,2,2-テトラクロロエタン (別名) 四塩化アセチレン、1,1,2,2-四塩化エタン、アセチレンテトラクロリド、sym-テトラクロロエタン、1,1,2,2-テトラクロルエタン、テトラクロルエタン (英名) 1,1,2,2-Tetrachloroethane (EC名称)、1,1-dichloro-2,2-dichloroethane、Acetylene tetrachloride、sym-Tetrachloroethane、Ethane, 1,1,2,2-tetrachloro- (TSCA名称)
成分及び含有量	1,1,2,2-テトラクロロエタン、97.0%以上
化学式及び構造式	C12CHCHC12、C2H2C14、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	167.85
官報公示整理番号	化審法：(2)-56 安衛法：公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	79-34-5
EC No.	201-197-8
危険有害物質	1,1,2,2-テトラクロロエタン

## 4. 応急措置

吸入した場合	直ちに医師に連絡する。 直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。 被災者を毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で安静にする。 呼吸していて嘔吐がある時は、頭を横向きにする。 呼吸が止まっている場合、または呼吸が弱い場合には衣服を緩め、呼吸気道を確保した上で人工呼吸(または酸素吸入)を行なう。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水

- で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。  
まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。  
次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗浄を続ける。  
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
- 飲み込んだ場合：  
直ちに口をすすぎ、うがいをする。  
大量の水又は水に活性炭を懸濁した液を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。  
意識がない時は、何も与えない。  
気分が悪い時は、医師の診察、手当を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状：  
吸入：腹痛、咳、咽頭痛、頭痛、吐き気、嘔吐、めまい、嗜眠、錯乱、振戦、痙攣  
皮膚に付着：皮膚から吸収される可能性がある。  
発赤、皮膚の乾燥。  
眼に付着：発赤、痛み  
経口摂取：腹痛、吐き気、嘔吐。  
その他の症状は、「吸入」の項を参照。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤：この製品自体は難燃性である。  
消火剤の限定はない。  
周辺火災の種類に応じた消火剤を用いる。  
粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、散水など
- 使ってはならない消火剤：棒状放水（本品があふれ出て、人体への有害性、環境汚染を引き起こすおそれがある。）
- 特有の危険有害性：火災中に刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生する可能性がある。  
特有の消火方法：危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護：有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：  
漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。  
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項：河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。  
油又は有害液体物質による海洋の汚染の防止のため、海上で薬剤を使用する場合は、国土交通省令・環境省令の規定に適合すること。
- 回収、中和：ウエス、雑巾、乾燥土又は砂で吸収し、密閉できる空容器に回収する。  
後で廃棄処理する。後処理として、漏洩場所は洗剤で洗浄後、水で洗い流す。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材：  
危険でなければ漏れを止める。  
二次災害の防止策：事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い  
技術的対策：本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。  
ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
- 局所排気・全体換気：作業場には囲い式フードの局所排気装置又はプッシュプル型換気装置を設置する。
- 安全取扱い注意事項：すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
取扱い後はよく手を洗う。  
ドラム等に本製品を含んだ密閉容器に溶接の火等の高エネルギーの火源を当てると爆発の危険性があるので注意する。
- 接触回避：湿気、水、高温体との接触を避ける。
- 保管

技術的対策	: 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
保管条件	: 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。 容器を密閉して冷暗所に保管する。 遮光して保管する。 必要に応じ施錠して保管する。
混触危険物質	: 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
容器包装材料	: 強酸化剤、強塩基 ガラス、鋼、ステンレス鋼など。 アクリル樹脂、塩化ビニル樹脂、合成ゴムなどは、侵されるので不適。

<参考> 容器包装材料の室温における耐薬品性(あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要)

【 :良好 :やや良好(条件による) :やや不良 x:不良 -:データなし 】

スチレンゴム× クロロプレンゴム(ネオプレン)× ニトリルゴム× ブチルゴム×  
天然ゴム× シリコンゴム× フッ素ゴム(バイトン、ダイエル)× テフロン  
軟鋼× ステンレス(SUS304 SUS316)× チタン× アルミニウム× 銅  
軟質塩ビ× 硬質塩ビ× ポリスチレン× ABS× ポリエチレン× ポリプロピレン  
ナイロン× アセタール樹脂× アクリル樹脂× ポリカーボネート× ガラス

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 1ppm
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):	
日本産衛学会	1ppm、6.9mg/m <sup>3</sup> 皮膚から吸収される。
ACGIH	TLV-TWA 1ppm、6.9mg/m <sup>3</sup> 皮膚から吸収される。
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 作業場には囲い式フードの局所排気装置またはプッシュプル型換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク)を着用する。
手の保護具	: 保護手袋(塩素系溶剤用、テフロン製)を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。 作業衣を家に持ち帰ってはならない。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 液体
色	: 無色透明
臭い	: 特異臭(甘く、息苦しく、クロロホルム様の臭い)
pH	: データなし
融点	: -44
凝固点	: データなし
沸点	: 約147
引火点	: データなし
可燃性	: 難燃性
爆発範囲	: 下限 20vol%、 上限 54vol%
蒸気圧	: 647 Pa (20 )
相対ガス密度(空気 = 1)	: 5.8
20 での蒸気/空気混合	
気体の相対密度(空気 = 1)	: 1.03
密度又は相対密度	: データなし
比重	: 1.60 (20/20 )
溶解度	: 水に溶けにくい(0.29g/100 mL、20 )。 エタノール、ジエチルエーテルに極めて溶けやすい(混和しやすい)。 メタノール、ベンゼンなど多くの有機溶剤に可溶(混和)。
オクタノール/水分配係数	: log Pow = 2.39
発火点	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: データなし
動粘度	: 0.98 mm <sup>2</sup> /s (28.9 )

粒子特性	: データなし
GHS分類 引火性液体	: 本品は難燃性であるが、引火点62 (Lange (16th, 2005)) というデータもある。また、不燃性である (Merck (13th, 2001), Chapman (2005), ホンメル (1991), Weiss (2nd, 1985)) という情報がありデータ不足により分類できないとした。
自然発火性液体	: 不燃性である (Merck (13th, 2001), Chapman (2005), ホンメル (1991), Weiss (2nd, 1985)) との記述から、区分に該当しないとした。
自己発熱性化学品	: 不燃性である (Merck (13th, 2001), Chapman (2005), ホンメル (1991), Weiss (2nd, 1985)) との記述から、区分に該当しないとした。

## 10. 安定性及び反応性

安定性 (反応性・化学的安定性)	: 通常の取扱条件下で安定である。 熱に不安定である。
危険有害反応可能性	: 非導電性で流動、攪拌などの際に静電気が発生することがある。 加熱や空気、紫外線、湿気の影響により徐々に分解し、塩化水素、ホスゲンを含む有毒で腐食性のガスを生じる。 アルカリ金属、強塩基、多くの金属粉と激しく反応して、有毒で爆発性のガスを生じる。 加熱や燃焼により分解し、有毒ガス(塩化ビニル、塩化水素、ホスゲン、一酸化炭素)を生成する。
避けるべき条件	: 高熱、日光
混触危険物質	: アルカリ金属、強塩基、金属粉末
危険有害な分解生成物	: 塩化水素、ホスゲン、塩化ビニル等

## 11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD50 = 319 mg/kg (ACGIH (2001)) 飲み込むと有害 (経口) (区分4) 経皮 ウサギ LD50 = 4000 mg/kg (PATTY (5th, 2001)) 区分5とした (国連GHS分類)。 ただし、分類JISでは区分に該当しないである。 皮膚に接触すると有害のおそれ (経皮) (区分5) 吸入 (蒸気) ラット LC50 = 1200 ppm/4h (SIDS (2009)) 吸入すると有害 (蒸気) (区分3) 吸入 (ミスト) 分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	: ウサギの皮膚に試験物質の原液0.01mLを24時間開放適用により、皮膚一次刺激指数6 (最大値8) で強い刺激性 (highly irritating) を示した (SIDS (2009))。さらに、ウサギを用いた別の試験では充血、浮腫、重度の水疱形成が認められた結果 (ATSDR (1996))、また、紅斑のみを認め皮膚一次刺激指数2.6 (最大値8) で中等度の刺激性との結果 (IUCLID (2000)) も報告されており、以上の結果に基づいて区分2とした。 皮膚刺激 (区分2)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: ウサギの眼に試験物質の原液0.1 mLを適用した試験で眼刺激指数42.5 (最大110に対し) で刺激性あり (irritating) との結果 (SIDS (2009))、また、蒸気ばく露でもモルモットおよびヒトで眼に対する刺激性が報告されている (CICAD 3 (1998)、ATSDR (1996)) ことから、区分2 Aとした。 強い眼刺激 (区分2A)
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 呼吸器感作性: 分類できない。 皮膚感作性: 分類できない。
生殖細胞変異原性	: In vivoでは、ラットの優性致死試験で陰性、ラットの骨髄細胞の染色体異常試験で弱陽性 (雌)、陰性 (雄)、マウス (雌雄) の末梢血の小核試験で陽性、マウス肝細胞の不定期DNA合成試験で陽性、陰性、マウス及びラットの肝臓、腎臓、肺、胃のDNA結合試験で陽性である (環境省リスク評価第8巻 (2010)、ATSDR (2008)、SIDS (2005)、NTP DB (2014)、IARC 71 (1999))。 In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験で陽性、陰性、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、染色体異常試験で陰性、姉妹染色分体交換試験で陽性である (環境省リスク評価第8巻 (2010)、産衛学会許容濃度の提案理由書 (1984)、SIDS (2005)、ATSDR (2008)、CICAD 3 (1998)、NTP DB (2014)) である。 以上より、区分2とした。 遺伝性疾患のおそれの疑い (区分2)
発がん性	: IARCでグループ2B (IARC (2014)、ACGIHでA3 (ACGIH (7th, 2001)、HSDB (2014))、EPAでC (EPA IRIS (1987)、IRIS (2010)、HSDB (2014))) に分類されている。 以上より、区分2とした。

- 生殖毒性 : 発がんのおそれの疑い (区分2)  
 分類できない。  
 ラットを用い9ヵ月間吸入ばく露した雄と無処置の雌の交配による一世代試験 (SIDS (2009)) において、評価対象とした妊娠の指標および仔の指標に関して対照群との間に統計学的有意差はなく外表奇形も認められなかった。一方、ラットおよびマウスの器官形成期 (妊娠6~15日) に経口ばく露による発生毒性試験 (SIDS (2009)) では胎仔の全吸収が観察されたが、母体死亡など親動物に強い毒性が現れた高用量群のみで認められた影響のため分類の根拠としなかった。  
 以上の試験を含め、本物質について標準的な生殖・発生毒性試験はされていない。
- 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 本物質は、気道刺激性及び麻酔作用がある (SIDS (2005)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2008)、CICAD 3 (1998))。本物質の主要な影響は、中枢神経系、肝臓、腎臓との記載がある (環境省リスク評価第8巻 (2010)、ACGIH (7th, 2001)、CICAD 3 (1998)、PATTY (6th, 2012))。ヒトにおいては、吸入ばく露で、腹痛、咳、咽頭痛、頭痛、吐き気、嘔吐、眩暈、嗜眠、錯乱、振戦、痙攣、経口摂取では腹痛や吐き気、嘔吐が認められている。また、経路不明ながら、自殺、事故、作業者、ボランティアのばく露などの報告で、混迷、平衡感覚喪失、眠気、痙攣、昏睡、振戦、眩暈、中枢神経系機能低下、意識喪失、協調運動障害、知覚麻痺、傾眠など中枢神経系への影響、肝細胞崩壊、肝変性、肝うっ血、肝壊死、脂肪肝変性、重度の肝障害、黄疸、肝肥大などの肝臓への影響、尿細管損傷など腎臓への影響、肺のうっ血、肺水腫、心外・内膜の出血、食道、胃粘膜のうっ血、死亡が報告されている (環境省リスク評価第8巻 (2010)、ACGIH (7th, 2001)、CICAD 3 (1998)、PATTY (6th, 2012)、HSDB (2014)、産衛学会許容濃度の提案理由書 (1984)、SIDS (2005)、ATSDR (2008))。実験動物では、致死量を超えない濃度のばく露で主要標的臓器は中枢神経系の抑制であり、遅延性の麻酔作用様症状及び肝細胞変性 (2週間観察期間の終わりに観察されている) の報告がある (SIDS (2005))。また、マウスの1,091 ppm (7.49 mg/L) 吸入ばく露 (30分) で、反射反応低下、ラットの200 ppm (1.37 mg/L) 吸入ばく露 (6時間) で、自発運動減少 (ACGIH (7th, 2001))、その他、運動失調、衰弱、麻酔作用の報告がある (ATSDR (2008))。以上より、ヒトにおける中枢神経系、肝臓、腎臓への影響、気道刺激性、麻酔作用を影響とみなし、区分1 (中枢神経系、肝臓、腎臓)、区分3 (気道刺激性、麻酔作用) とした。なお、肺への影響 (肺のうっ血、肺水腫) は二次的変化とみなし、区分の対象としなかった。  
 中枢神経系、肝臓、腎臓の障害 (区分1)  
 眠気又はめまいのおそれ (区分3)  
 呼吸器への刺激のおそれ (区分3)
- 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : ばく露を受けた380人の労働者において、振戦、頭痛、めまいを含む神経症状の発症率が本物質の空気中濃度とともに増加したとの報告 (CICAD 3 (1998)) があり、一方、本物質に慢性的にばく露されたヒト277人中75人に症状発現があり、55人に肝臓肥大が見られたと報告されている (PATTY (5th, 2001))。さらに、本物質の慢性中毒には2つの形態が考えられ、一つは振戦、めまい、頭痛のような中枢神経系への影響であり、もう一つは嘔気、嘔吐、胃痛、黄疸および肝臓肥大を含む胃腸系・肝臓の症状であるとの記述 (HSDB (2005)) もあり、区分1 (中枢神経系、肝臓) とした。  
 長期又は反復ばく露による中枢神経系、肝臓の障害 (区分1)
- 誤えん有害性 : 分類できない。  
 28.9 における動粘性率 (0.98 mm<sup>2</sup>/s) は20.5 mm<sup>2</sup>/s以下であるが、本物質は塩素化炭化水素でありガイダンス基準の対象外であるとともにヒトでの誤えん有害性の情報はないため、データ不足により分類できないとした。

## 12. 環境影響情報

- 生態毒性  
 水生環境有害性 短期 (急性) : 甲殻類 (オオミジンコ) EC50 = 9.3mg/L/48H (SIDS (2005))  
 水生生物に毒性 (区分2)  
 水生環境有害性 長期 (慢性) : 区分に該当しない。  
 急性毒性が区分2であるものの、甲殻類 (オオミジンコ) の28日間 NOEC = 6.9mg/L (ECETOC TR91 (2003)) から判断して、区分に該当しないとされた。
- 残留性・分解性 : データなし  
 生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Kow = 2.39  
 土壤中の移動性 : データなし  
 オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていない

ため、分類できないとした。

### 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物：関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。  
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。  
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。  
（参考）燃焼法  
可燃性溶剤と共にアフターバーナー及びスクラバーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、できるだけ高温（ダイオキシン発生抑制のため850以上）で焼却する。
- 汚染容器及び包装：内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

### 14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号：151

#### 国際規制

海上規制情報（IMDGコード/IMOの規定に従う）

UN No.：1702  
Proper Shipping Name：1,1,2,2-TETRACHLOROETHANE  
Class：6.1（毒物）  
Sub risk：-  
Packing Group：II  
Marine Pollutant：Yes（該当）  
Limited Quantity：100mL

航空規制情報（ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う）

UN No.：1702  
Proper Shipping Name：1,1,2,2-Tetrachloroethane  
Class：6.1  
Sub risk：-  
Packing Group：II

#### 国内規制

陸上規制情報（特段の規制なし）

海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う）

国連番号：1702  
品名：テトラクロロエタン  
クラス：6.1  
副次危険：-  
容器等級：II  
海洋汚染物質：該当  
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類：Y（テトラクロロエタン）

少量危険物許容量：100mL

航空規制情報（航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う）

国連番号：1702  
品名：テトラクロロエタン  
クラス：6.1  
副次危険：-  
容器等級：II  
少量輸送許容物件許容量：1L

特別の安全対策：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
重量物を上積みしない。  
必要に応じ移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

### 15. 適用法令

労働安全衛生法	: 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (政令番号 第357号「1,1,2,2-テトラクロロエタン(別名: 四塩化アセチレン)」、対象重量%は 1) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (政令番号 第357号「1,1,2,2-テトラクロロエタン(別名: 四塩化アセチレン)」、対象重量%は 0.1) (別表第9) 特定化学物質等 第2類物質、特別有機溶剤等 (「1,1,2,2-テトラクロロエタン」) (特定化学物質障害予防規則) 作業環境評価基準
化審法	: 旧第二種監視化学物質 No.376 (官報公示日: 2000/09/22)
消防法	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	: 促進法 (PRTR法) : 分類 「第1種指定化学物質」 : 政令番号 「1-300」 : 管理番号 「522」 : 政令名称 「1,1,2,2-テトラクロロエタン (別名: 四塩化アセチレン)」 ただし、R5年3月31日まで : 種別 「第2種指定化学物質」 : 政令番号 「2-60」 : 政令名称 「1,1,2,2-テトラクロロエタン」
船舶安全法	: 毒物類・毒物 (危規則第2,3条危険物告示別表第1)
航空法	: 毒物類・毒物 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質 Y類物質「テトラクロロエタン」(施行令別表第1)
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質 (政令番号: 中環審第9次答申の121)
輸出入管理令	: キャッチオール規制 (別表第1の16項) HSコード: 2903.19 第29類 有機化学品 ・輸出統計番号 (2023年4月版): 2903.19-900 「炭化水素のハロゲン化誘導体 - 非環式炭化水素の塩素化誘導体(飽和のものに限る): その他のもの - その他のもの」 ・輸入統計番号 (2023年4月1日版): 2903.19-090 「炭化水素のハロゲン化誘導体 - 非環式炭化水素の塩素化誘導体(飽和のものに限る): その他のもの - その他のもの」

## 16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献	:	化学工業日報社
化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	:	化学工業日報社(2007)
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	:	中央労働災害防止協会編
化学物質の危険・有害便覧	:	共同出版
化学大辞典	:	化学工業日報社
安衛法化学物質	:	医歯薬出版
産業中毒便覧(増補版)	:	オーム社
化学物質安全性データブック	:	三共出版
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	:	労働省安全衛生部監修
化学物質の危険・有害性便覧	:	Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	:	nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	:	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じて作成しています。